

歴史的建造物の最適な保存方法の模索 ～地域住民にとっての小田城とは～ S.N.<生活社会・教育ゼミ①>

1. はじめに

現代では歴史的建造物を保存する動きが活発である。一方、関野貞が行った新薬師寺本堂と唐招提寺金堂の創作的な復元に対して、「これまでの見慣れた姿が、復元という名の修理によって激変したことの波紋は大きく、すぐさま修理に対する批判的な言説が発表された」(光井,2021)とあるように、過去には歴史的建造物への価値観の違いから、保存方法をめぐっての対立が起きた事例がある。

建造物の価値が守られる保存方法を提案するために、本研究では歴史的建造物に深く関わる地域住民の視点から最適な保存方法を模索する。本研究ではつくば市の小田城を調査対象とし、地域住民としてつくば市に在住または通学している竹園高校生の価値観を調査を通して、小田城を再建する場合に最適な保存方法を明らかにする。

2. 研究方法

まず、歴史的建造物を保存する際に用いられる主な保存方法について調査し、それぞれの特徴を明らかにする。

次に、調査の結果をもとに質問項目を作成し、竹園高校生60人を対象にアンケート調査を実施する。調査では、以下の2つのグループに分けて回答を収集する。第一に、自分の住んでいる市町村にある歴史的建造物に対する価値観についてのアンケートを行うグループ(以下グループA)である。第二に、日本のどこかにある歴史的建造物に対する価値観についてのアンケートを行うグループ(以下グループB)である。回答者を30人ずつに分けて調査を行い、回答の傾向を比較して自分たちの市町村の歴史的建造物に特有の価値観を明らかにし、最適な保存方法を決定する。

3. 調査結果

3.1保存方法の調査の結果

小田城に用いられうる保存方法として、復元、再現、ファサード保存、模擬天守の4つの方法がある。復元とは「すでに失われた歴史的な建物を、基本的に全て新材を用いて再建すること」(青柳,2010)であり、再現は「一度完全に失われてしまった建造物を、歴史的な考証に基づいて、過去の状態に戻すことを目指して行われる新築行為」(光井,2021)、ファサード保存は「建造物本体は現代的な要求にしたがって全面的に改装して活用しつつ、街路に面した外観(＝ファサード)のみを保存するというもの」(光井,2021)、模擬天守は「もともと天守が実在しなかった旧城下町でも地域活性化や観光施設化を目的として、天守を建設する」(片柳,2015)というものである。

以上の調査結果より、以下の質問項目を設定した。「質問1:再建の際に当時の状態を再現することが重要だと思う項目を外観、当時の建築技法、当時の町並み(周辺地域の雰囲気)次から2つ選んでください」、「質問2:再建した城の屋内の利用方法として、当時の内装の忠実な再現、建造物にまつわる歴史を説明する展示施設、会社や店舗等の現代的な施設の3つの項目はそれぞれどの程度必要だと考えますか」、「質問3:城を再建するときに重要なのは、観光資源としての利用と、調査研究の成果としての形のどちらですか」これらの項目について、調査を実施した。

3.2アンケート調査の結果

質問1に対する回答結果は以下の通りである。

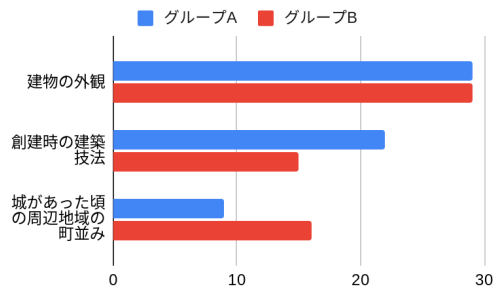


図1 グループA,Bの質問1の回答結果

図1より、建物の外観の項目はどちらのグループも高く、創建時の建築技法の項目においては自身の住む市町村の歴史的建造物に対して特に高くなっていることが読み取れる。

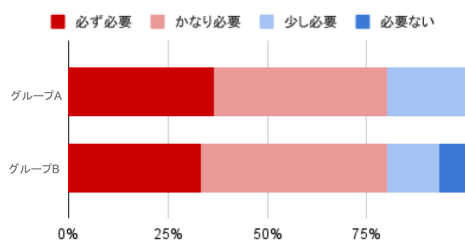


図2 当時の内装の忠実な再現についての回答

図2より内装の再現の必要性はグループAでわずかに高いことが読み取れる。

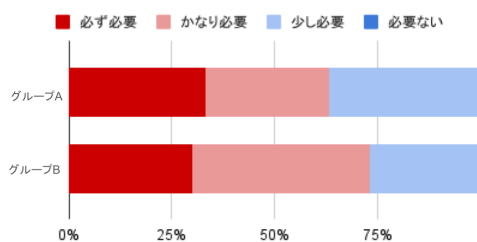


図3 建造物にまつわる歴史を説明する展示施設についての回答

図3より展示施設の必要性ではグループAでわずかに低いことが読み取れる。

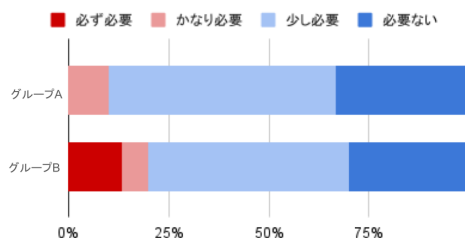


図4 会社や店舗等の現代的な施設についての回答

図4より現代的な施設への利用の必要性は低いことが読み取れる。

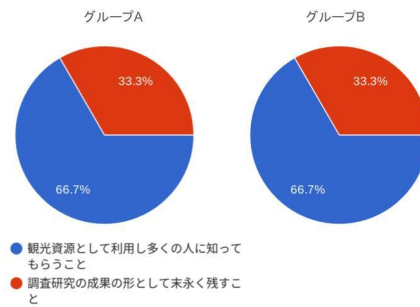


図6 グループA,Bの質問3の回答結果

図6より質問3において両グループの回答に差はない。

4. 結論・考察

調査結果より、地域住民は外観と当時の建築技法を重要視していることから、復元が最適な保存方法であると言える。また、建造物の内装についても当時の忠実な再現を行うべきであると言える。

この結果は、地域住民が歴史的建造物に対して他地域の住民よりも造詣が深く、強く魅力を感じているために創建時の姿を望んでいると考えられる。

5. 今後の課題

今後の課題として、より精度の高い調査を行うために、つくば市在住の人と他地区に住んでいる人を区別した調査や、保存方法とそれにかかる費用の兼ね合いを考えた調査を行うことが挙げられる。

謝辞

本研究の進行にあたり、ご指導いただいた指導員の石鍋さん、徳永先生並びにアンケート調査にご協力頂いた生徒の皆様から感謝申し上げます。

参考文献

- [1]光井渉,2021,『日本の歴史的建造物』,中央公論新社
- [2]青柳憲昌,2010,「復元」の意義を問う: 平井聖講演会「復元するということー東京駅はそのまま復元してはいけませんー」レポート
- [3]片柳勉,2015,「旧城下町赤穂の景観まちづくりにみる地域の記憶」『地球環境研究』第17号,pp71-81